

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092100058		
法人名	株式会社 嘉麻の杜		
事業所名	グループホーム 嘉麻の杜		
所在地	福岡県嘉麻市下山田715番地13		
自己評価作成日	平成25年10月29日	評価結果確定日	平成25年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成25年11月5日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は開設3年目を迎え、スタッフ一同嘉麻の杜の理念である【我が家】としての機能を果せる場の提供を充実する為に頑張っています。利用者様の個別性を尊重し、心身の機能をできるだけ維持できるように安心して生活して頂きたいと考えてます。  
年間10回程度の外出レクでは、季節感を満喫すると共に外食を楽しみ、隣接するグループホーム・デイケアとは合同で計画実行する夏祭り・敬老会・クリスマス会・餅つき大会はご家族の皆様にも好評です。又、嘉麻の杜・利用者・ご家族をつなぐ架け橋となるよう【嘉麻の杜新聞】を毎月発行しています。  
これからも、ご利用者・ご家族・地域の方に信頼される施設を目指していこうと考えています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム嘉麻の杜は、運営理念に「その人らしい生活を送るお手伝いができるよう、ひとつの大きな『家族』を目指し、専門性を持って支援します。」と謳い、5項目の具体的な取り組みを掲げている。入居者の得意な絵を描くことや園芸、裁縫、また毎日日記をつけることや毎朝仏壇の世話をするなどを日々支援し、理念の実践に取り組んでいる。隣接する系列事業所と合同でイベントを開催したり、四季折々の計画的な外出で、入居者が笑顔になる機会を作っている。仏壇や位牌を持ち込まれた入居者が多いことから、地域の住職にお願いしてホームで彼岸法要を行い、入居者が大事にしてきた暮らしの継続も支援している。毎月、入居者と共に避難訓練を行い、今年度は念願であった地元消防団と共に訓練を実施できたため、運営推進会議にも地元消防団の参加を呼びかけている。開設3年目になり、地域の協力を得ながら、地域密着型サービスとして理念を具現化しつつあるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム 嘉麻の杜**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	我が家の雰囲気継続して頂く為に、利用者の来客時には居室で過ごして頂くよう心がけ、お茶を運ぶようにしている。	運営理念に「その人らしい生活を送るお手伝いができるよう、ひとつの大きな『家族』を目指し、専門性を持って支援します。」と謳い、5項目の具体的な取り組みを掲げている。職員と一緒に楽しく過ごしているレクリエーション時などの入居者の笑顔に、理念を実践していると感じている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市から派遣される相談員の方が定期的に来所され、その方達と楽しく2時間ほど過ごされている。今年から地域の明見寺のお願い、秋の彼岸供養を行った。又、毎月実施している避難訓練に地域の消防団に参加してもらった。	入居者が以前住んでいた自治会から敬老会のお誘いを受けて参加したり、地域のボランティアによる踊りを隣接事業所利用者とともに楽しんでいる。今年の避難訓練は地元消防団の参加があり、今後も交流を推進する予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所として、認知症の人の理解や支援の方法を地域へ向けて発してはいない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回個人情報保護の確認、参加者全員で目的と義務を確認し、行事報告・避難訓練報告等を行っている。又、質疑応答の中で出たご家族からの意見はその都度サービス向上に向け努力している。	市担当課、入居者、家族、民生委員の参加で2ヵ月ごとに実施している。全家族に開催通知を配布し、開催時間は夕刻で家族の参加できる時間に設定している。会議に参加した入居者が、行ってみたい場所を発言して驚くこともある。欠席者には議事録を送付している。	地域の理解や協力、交流を促進するために、今後も継続して地域代表に運営推進会議への参加の呼びかけをお願いします。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会議・ケアマネ連絡会議に毎月参加し、新しい情報を取り入れさーびすこうじょうに役立てている。又、毎回地域連絡協議会には高齢者福祉課から参加を頂き、ご意見を頂いている。	介護相談員を受け入れ、地域包括支援センターとは、入居の相談や空き情報の確認等で、日頃から連携している。今年度は、合同で開催された民生委員総会とケアマネ連絡会議に出席し、情報交換に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	市の資料に基づき全員で学習した。身体拘束については単に縛るという事だけでなく、エプロン・テーブルでも拘束につながることで、全員が正しく理解しているとは言い難い。玄関の施錠については崖や車の通りが激しい道路に面して、利用者の安全を考えると外す状況ではない。	身体拘束の内部研修を実施している。家族の了解を得て入居者の顔写真等、緊急時の情報提供の備えをするとともに、市の行方不明者探索「ケアマネット安心・安全連絡網」に参画している。転倒の危険がある入居者は、家族と承諾書を交わし、ベッド柵を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム連絡会議・ケアマネ連絡会議等で配布される資料を持ち帰り、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム連絡会議・ケアマネ連絡会議等で配布される資料を持ち帰り、検討している。	成年後見制度及び日常生活自立支援事業のパンフレットを整備している。日常生活自立支援事業の制度を活用していた入居者が退居され、現在は事業や制度の利用はない。	今後は多様な家族状況が予測されることから、内部学習会等で事業や制度の内容や違いを周知し、入居時の説明をお願いします。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にグループホームでの生活のあり方や、契約内容について十分な説明をおこなっている。又、疑問点・不安に思っている点などについてはその都度対応している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には来所時・運営推進会議のなかで、ご要望やご意見を伺うようにしている。又、毎月、嘉麻の杜新聞・利用料の明細等の配布して利用者の生活を知らせている。急な要件については電話等で伝え、その際にもご意見等伺うようにしている。	遠方の家族は、電話や郵便での連絡時に意見を伺っている。ホームに来訪される家族は、その都度丁寧にお話を伺っている。入居者や家族の意見でボディシャンプーから石鹸に変更になり、各居室に温度湿度計が設置されている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃出る意見については管理者が把握し、定期的開催されるミーティングの中で全員で検討し決定実行されている。	毎月定例のミーティングで、夜勤で困ったことや、調理器具、掃除道具の不備などの意見が検討されている。どうしても衣類の整理のできない入居者について家族も交えて話し合い、ホームで管理することを決定し、実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個々人の努力・実績・勤務状況を把握している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集にあたっては、性別年齢関係なく介護に対する情熱を最優先に考え、採用基準にしている。	ハローワークで募集され、経験に応じた新人教育を行っている。研修や資格取得は、交通費などの費用の補填を支援する仕組みとなっている。子育て中の職員のシフト配慮や休みの希望もかなえられている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日常的には朝礼やミーティングの中で利用者に対する接遇教育が行われている。	福岡県社会福祉協議会の年間研修計画に沿って、職場代表者が参加し、伝達講習で職員全員が共有している。声かけや声の大きさなど、接遇上の配慮をしながら、一人ひとりの入居者の支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社1年未満者に対して、「認知症高齢者の接し方」について施設内研修を実施した。認知症介護実践者研修には2名参加させている。2年3年目のスタッフについては研修案内等参考にし勤めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	隣接する檜木郷グループと合同で夏祭り・敬老会・クリスマス会・餅つき大会・等取り組みをしている。その他、嘉麻市主催のグループホーム連絡会・ケアマネ連絡会において交流を深め意見交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所以前より、情報収集を心がけ、できるだけ不安感なく入所していただきたいと考えている。又、新しい環境に慣れるまでは担当スタッフをはじめスタッフ全員が見守る。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	可能な限り情報収集を心がけ、ご家族の要望や不安に思っていることなどを知る。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	出来る限りご本人の意思を尊重し、今何が必要であるかを考え対応させて頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テレビ番組や、トイレ誘導の際にも～しましょうか。どうしましょうか。などの問いかけをし利用者に決めて頂いている。又、調理の味見などして頂き感想を伺っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の最近の様子や状態を具体的にお伝えする事で情報の共有を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆の時期にお寺参りに行ったり、ご家族に依頼してお友達の家を訪問したりしている。友人が訪ねてくる場合もある。	暑中見舞いや年賀状は、本人のスナップ写真を印刷し、一番出したい人に出せるよう支援している。仏壇の持込が半数以上のため、地域のお寺からホームへ来ていただき、宗派に配慮して秋の彼岸法要を行い、入居者に喜ばれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別性を重視したフォローを心がけている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者の退所に至る経緯やその後の所在等、可能な限り把握し問い合わせ等に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ここで楽しく生活していきたいと考える方が多く、豊かに生きがいを持って生活して頂きたいと考えている。	自分の思いを伝えられる方が多いが、気遣って表に出されない入居者もあり、日頃のかかわりの中で観察しながら、家族からも聴きだしてもらうなどで、意向の把握に努めている。訪問診療医の勧めで補聴器を使用し始めてから、歌うことが楽しみになり、明るくなった入居者もある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人だけでなく、ご家族や以前の介護サービス事業所からの情報提供を参考にしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者担当・看護師等からの情報も参考に把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の参加は難しいが、面会時や電話の機会等にご意見、ご要望を伺うようにしている。看護師からは医療面での状態や注意事項を出して頂いている。	計画作成担当者が日頃の介護に関わることで、職員の気づきや家族の思いを共有し、入居者が暮らしの中でできること、サポートの必要なことを生活リズム表に記載している。定例のミーティングでモニタリングや計画についての意見が集約され、検討されている。	全職員が介護計画を共有し、日々のサービスの提供をモニタリングすることで、チームによる目標の達成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年9月度より様式を変更し個別性のある記録方式を実施している。職員間の情報を共有する点ではやや成果あるものの介護計画の見直しに活かすところまでは到達していない。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者9名中5名の方が仏壇を持って入られている。墓参りに行きたいと横浜から家族総出で大分に行かれた事もあるが、殆どの方は供養なく過ごされている。そんな現状から今年初めて近くのお寺さんに依頼をし彼岸の供養をして頂いた。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市から派遣されている相談員の方に定期的にお越しいただいたり、運営推進委員会には民生委員の方・市職員の方にも参加して頂いている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/月訪問診療・2回/月訪問看護・1回/3ヶ月眼科往診・必要時歯科往診・その他整形外科や精神科の受診をしている。	かかりつけの眼科に家族と同行される入居者もいるが、本人や家族の希望でホームの協力医療機関に主治医を変更される場合も多い。訪問診療以外の受診の際は職員が同行し、看護師が家族に受診結果を報告している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を渡し情報の提供に努め、退院時には入院中の状態、退院後に気をつけなければならない事等の情報を頂くようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所では終末期ケアは行わないという契約を入所時に交わしており、重症化した場合は医療機関へ移ることになっている。	入居時、重度化や終末期に向けた指針を説明している。本人や家族がぎりぎりまでここで暮らしたいと望まれることが多く、その都度、話し合いながら、医療機関や施設などを紹介し、入居中は安心して過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に依頼し、毎年救急救命講習を全員が受講している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回、自主的に夜間時を想定した火災訓練を行い10月度の訓練においては、地元消防団にも参加頂き、ご指導を受けた。	緊急連絡網による抜き打ちの通報では、15分以内で全職員が駆けつけている。毎月実施している避難訓練の成果で、入居者はベルが鳴るとすぐに居室から出られるようになっている。地元消防団から搬送指導を受けたり、消防署の協力で救急蘇生法やAEDの講習会を実施している。	地元消防団との交流を継続され、水・食料などの備蓄を整備し、地域ぐるみの災害時を含めた訓練へと展開されるよう期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ全員、言葉使いや対応に気を付けている。	入居者ひとり一人の尊厳やプライバシーに配慮して支援しているが、職員の呼びかけ方が嫌だと、直接管理者に伝えた入居者もある。また、入居者同士で干渉し合う時には、職員が間に入り、対処している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どうなさいますか。等の問いかけにより自己決定して頂いている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだ、確立していない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	いつも同じ服にならない様きをつけ、外出時にも気を配っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のあるメニューを取り入れるようにしている。又、プランターで栽培したトマトや緑のカーテンで出来たゴーヤ等を皆で収穫し食材として使ったりしている。	入居者の嗜好に配慮しながら、1週間毎にメニューを決めている。土筆や蒔の下ごしらえは、手際よく入居者が手伝っている。たまの外食は全員が大変楽しみな行事になっている。職員1名が伴食しているが、全員、普通食でお箸を使って食事をしている。職員は声掛けをしたり水分補給に気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉嫌い・魚嫌いに合わせたり、その他汁物を控えたり、食の細い方については盛り付けを少な目にするなどの工夫をしてなるべく完食出来るよう取り組んでいる。DM食については医師の指示のもとに行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕については習慣ついておられるも、昼食後の清潔保持が確立できていない。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介助・誘導の必要な方についてはこの習慣を把握し、支援をしている。	頻回な排便で自分でトイレに行くため、汚染と転倒の危険が多い入居者と繰り返し話しをすることで、排便時の声かけができたり、立位保持のための訓練をするようになり、立位も安定しつつある。うまく言い表せない入居者のサインを見逃さないよう、一人ひとりのパターンの把握を支援に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医の指示のもとに取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	まだ出来ていない。	月・水・金の週3回、午前中から支援している。マンツーマンで介助をしたり、同性職員の介助を希望される入居者は、意向を大切に支援している。現在、入浴を拒否する入居者はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来ている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師から折に触れて利用者の状態報告がなされ、内服薬についても目的・副作用の恐れ・用法等について説明あっている。又、変更時にも説明がなされ、申し送りノートに記載され、全体への徹底がなされている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝食後から広告紙で箱作りをされたり、洗濯物を干したり取り込んだり畳んだり、利用者の個別に沿って出来る事をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	10回/年程、季節を感じて頂く為に外出の機会を設けている。日常的には散歩等で戸外へお連れしている。家族の協力が得られる方については、定期的に行きつけの美容室に行かれる場合もある。	全員で出かけると車椅子が5,6台となるが、外出を楽しみにされている入居者が多く、花見や紅葉狩り等、四季折々の外出を計画的に行っている。家族と温泉旅行に行く入居者や外食を楽しむ入居者もある。病院受診の帰りに個別の買い物に立ち寄ることもある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと自己管理されている方もおられるが、大半の方は預らせて頂いている。外出時にの買い物の際にはお財布を渡し支払いをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望に応え、電話で用件を伝えたり、電話口で代わったりしている。郵便物については利用者・家族にお渡ししている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・台所においては加湿器・エアコン等にて温度・湿度の調整を図り、光の調整についてはスクリーンを活用している。今年は見た目も楽しめるよう、緑のカーテンを試みた。浴室は整理整頓し、トイレは3回/日掃除点検を行っている。	明るく、広々としたリビングは広いガラス戸のため、庭の向こうの山々や隣接する介護施設事業所が見え、ゆったりとした雰囲気である。毎月の行事や夏祭りの楽しい写真、入居者が描かれた絵が、玄関や廊下に飾られている。昼食後は居室や共用空間で、入居者はそれぞれに寛いでいる。浴室は広い脱衣場があり、防臭や脱衣時に寒くないよう温度管理に配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各人居室の訪問は自由であるし、玄関フロアのスペース・リビングのソファ・テレビ前の椅子等においてくつろがれている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	スペースの関係もあるが長年慣れ親しんだ、家具等を持ち込んでもらっている。独居生活をされていた方は、仏壇が気になり持込される事が多い。	居室の窓から外の風景が広がり、季節が感じられる。趣味の手芸作品や人形等を個性豊かに、きれいに飾り、窓辺に鉢植えを育てている入居者もいる。仏壇や位牌、タンス等を自宅から持ち込み、家族写真を飾ったり、作りかけの手芸作品に入居者が心地よく過ごされていることが窺える。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部においてはバリアフリー・手摺を設置。安全・自由に行動できる空間を提供し各自の居室入口に表札を掲げ、便所・浴室・脱衣所・倉庫・事務室等にもプレート等で解かりやすい工夫をしている。		